

琉球竹

此竹始め獨枝にして、後に雙枝のもの多し、その雙枝を必ず左右互に大小の異なる事なり、なを苦竹の如し、葉は大抵淡竹葉に似て、五葉を一朶とす、また三葉のもの、四葉のものあるは、年を経て二葉或は一葉の、をのれと枯落しにて、全形にはあらず、其葉表裏の透りて、淡黃白色の縦道三五行青葉中に間して、兒篠の如く、葉本より葉先に至る、また梢葉に至りては、却て青色にして、縦道なきもあり、此即西土にいはゆる間道竹なりといへ共邦產た、幹水竹の如く、毎叢或は十五葉に至らざるを異なりとす、今松平越中守大塚の下邸に、杅目竹といふものあり、即これと同種なり、又一種その葉大なる事、苦竹と一様にして、毎青葉のうちたまく左枝に一葉或は右枝に一葉、その葉の正中或はかたよりて、一行二行の間道あるものあり、これは全く苦竹の變生なり、

〔大和本草九〕琉球竹 又コサン竹ト云、琉球ヨリ來レリ、大サハ如杖鞭、形狀其葉ハ吳竹ノ如シ、節間或近或遠、近者五六分、遠者五六寸、一本ノ内ニテ遠近アル事如此、筑紫有之、

〔和漢三才圖會八十五〕暴節竹

俗名也

本綱、暴節竹出蜀中、今四川高節磯砢即節竹也、

按出於日向佐渡原有名虎攢竹者、高五六尺、其葉小自根上一尺許間、有節七八數、磯砢甚奇也、即節竹良恨稍瘦細性不勁、是所謂暴節竹乎、石貌也磯砢當作磯、

〔古今要覽稿草木〕布袋竹 琉球竹

布袋竹、一名琉球竹、一名虎攢竹、は漢名を多般竹といふ、此竹根上より二三節以上は其節密なること凡五六節、或は八九節、其最密なるは十二二節に至る、其節或は斜或は正にして、毎節擁腫、宛も人面のごとく、或は鶴膝のごとく、或は螭蟠の如く、或は縮頸の鼈の如し、それより以上は節疎にて、節の状眞竹に似て、上高く下低し、凡密節上より末に至りては、其節下に擁腫なきは此竹の、